

毎日の授業や生徒との接し方に悩む若い先生たち、こんな小さなきっかけから生徒が変わります。

四月、新氣一転改めて「学び」を考える

四月は始まりのとき、出会いの季節です。中でも一年生は、今までと違った環境に入ります。迎え入れて、中学生としての学習の形（型）がつくれるよう、サポートしましょう。

1 中学生のめざす「学び」

自立した人間となるための、中学生のめざす「学び」は、次の二つの方向でとらえることができます。

（1）ひとり学び （2）学び合い

「ひとり学び」とは、自分自身の力ですすめる学びをいいます。知識情報として受け入れる、自分で考える、想像する、などの学びです。人は、基本的には「ひとり学び」です。それぞれが自分自身の力で学びます。しかしそれも限界があり、私たちは、自分の足らざるを他者に求めます。人はそれぞれ、考えることも学習することもありますから、出会って話し合うことでさらにいろいろなことを知り、自己を豊かにすることを知っています。このように人と出会って話し合う、多くの他者とかかわって、知を増やしていく学びを「学び合い」というのです。社会に出ると、人は一人では生きていけない、人とかかわりあって、ことを進めていく。人と関係をもって言葉を交わしつつ行動する——新しい意味を発見したり

解釈をし直したり新たな創造へ向けて行動したりする——という「学び合い」の力をつけたいと思います。そして、どちらの「学び」も、「学び」そのものが楽しいものであることが実感でき、意欲につながるように、「場」をつくって経験させることをめざしたいものです。それぞれの学びにおける基礎的言語行動力を示してみましょう。

《ひとり学び》

- ・ だまる（きき耳を立てる・話し手の目を見てきく）
- ・ 一回で聴きとる
- ・ 聴いてメモする
- ・ あいまい・不明な点を問いただす
- ・ だまって（集中して、速さをもって）読む・一回で読む

- ・ 事柄・関係・論理を、聴く・読む
- ・ 情景・人物・場面・心理・関係を、聴く・読む
- ・ 情報として、聴く・読む
- ・ 視写・聴写
- ・ 聴いて・読んで、大意・要旨をつかむ
- ・ 読書（幅広く）
- ・ 国語辞典・事典・年鑑などのこまめな活用

《学び合い》

- ・ 返事をする
- ・ まとまりをつけて話す
- ・ 正確に、わかりやすく話す
- ・ 問いに答える



3 「意欲」につなげる学習の「場」に

「意欲」とは「積極的に何かをしようと思う気持ち」《広辞苑》第五版）をいうのですが、そういう学習の状況をつくり出す、そこに生徒を追い込んで本気で打ち込む状況をつくり出す、そのときの気持ちがいかに意欲につながると考えられます。

本気で学習に打ち込む状況、その気にさせるための「場」には、次のような条件が必要でしょう。

○ 知的好奇心・探究心を触発するテーマ、話題・題材、学習材であること

○ 話し合うことで、広がりや深まりを感じとれたり、考える視点が増えたり、新たな疑問が生じたりすることが期待できるテーマや話題であること

○ 何かを創りあげていこうと意欲的になるような（例えばドラマをつくる、イベントを計画する）生産性のある計画

これは単元計画段階での留意事項ですが、関心・意欲は、学習前、学習中、学習後と育てる機会がありますし、生徒一人一人の個性によって表れ方が違いますから、個々に応じる指導も必要になります。要は、国語嫌いをつくりたくないこと、そのための教師としての研鑽と努力は必要になります。中学生はさまざまなる事柄に知的的好奇心旺盛でアンテナを高くあげています。私たち教師も日々の営みの中で、子どもに負けないように読書すること、話題を広げることが必要です。

（元岐阜大学教授）



2 「授業開き」単元の工夫

一年生と二、三年生の場合とは、かける時間・内容は異なりますが、個々の生徒を把握して学習をすすめられるように、次のことを念頭に置いて、授業開きの単元を設定しましょう。

（1）学習者ウォッチング

（2）学びの基本が身についているかの確認

- ・ だまってきく・一回で聴く
- ・ 聴いてメモする・視写・聴写
- ・ 国語辞典（何を持っているか、すぐひく習慣の有無）
- ・ 返事をする・声に出す（声の大きさ）
- ・ まとまりをつけて話す
- ・ 作文・書写（字体・筆力）

（3）教室ルール

- ・ あいさつ・道具の置き方・提出のルール
- ・ 立ち居ふるまい全般